



民児連広報

発行 令和7年3月31日

旭川市民生委員児童委員連絡協議会

旭川市5条通4丁目

旭川市ときわ市民ホール1階

旭川市社会福祉協議会内

電話0166-56-0150

発行人 佐川 徹

写真で見る民児連の動き



こども・女性部会研修会 (09.26)



函館市民児連視察受入 (10.17~18)



高齢者・障がい者福祉部会研修会 (10.22)



主任児童委員連絡会議 (10.23)



住民福祉部会事例検討会 (10.30)



長沼町民児協視察受入 (10.30)

『健康で、明るく・楽しく・

元気よく』をモットーに

旭川市民生委員児童委員連絡協議会

会長 佐川 徹

民生委員児童委員の皆様におかれましては、公私ともに大変お忙しいなか、毎日の活動にご尽力をいただき誠に有り難うございます。心より感謝申し上げます。

昨年は能登半島地震から始まり、猛暑、豪雨などが多発し、

後には南海トラフ地震の前兆ではないかと言われるくらい、自然災害に見舞われた年でした。幸いに旭川では災害らしい災害もなく年が過ぎました。しかし、

何時何が起こるか予測が出来ない災害。訓練・準備をすに越したことはないと思います。今年

は平穏な日常が送れるかと思っていました。記録的な豪雪、各地で記録を更新しましたが、旭川は、あまり目立った雪

害はなかったように思います。さて、今年のご存知のように

全国一斉改選があります。皆様の地区でも回塊世代の方が多数いられることと思います。その

方たちが退任され、新任の方との入れ替えがあると思います。その時は宜しくお願いいたします。

9月には昭和57年以来、43

ぶりに全国大会北海道大会が札幌で開催されます。現在のごところ5千名を超える規模の大会となりそうです。これから40～50年は北海道での開催はないと思います。是非この機会に参加をしてみても如何でしょうか。

私達を取り巻く環境は年々複雑になり、専門知識がなければ中々対応が難しい場面が多々あります。その為にも皆様がより活動しやすくすることを目指し、タブレットの導入を始めています。全民生委員に行き届くまでには、まだ時間がかかりそうですが、一歩ずつではありますが進めています。私達は結論を出す立場にはありませんので、その時には関係する最寄の部署につないでください。

令和7年度は『種を蒔かなければ芽は出ません。花も咲きません。』『健康で、明るく・楽しく・元気よく』をモットーに、頑張ってください。



第二回（令和六年度）

旭川市内小学生『民生委員・児童委員』作文コンテスト

「家族っていいな、あいさつするのって、
ご近所さんと、自分って」など、身近なできごと
を、自分の考えで、自分の言葉で

【入賞（最優秀賞・優秀賞・優良賞・佳作）作文集】

旭川市民生委員児童委員連絡協議会

【入賞作品】

●最優秀賞（旭川市民生委員児童委員連絡協議会長賞）
ぽかぽか／温かい気持ち／

旭川市立永山西小学校 六年 岩内 愛莉

●優秀賞（旭川市長賞）

きれいに咲いたあさがあ

旭川市立啓明小学校 五年 渡部 真白

●優秀賞（旭川市教育委員会教育長賞）

家族と人と関わることの大切さ

旭川市立東光小学校 六年 野田 いのり

●優秀賞（旭川市小学校長会長賞）

心でつながる街「旭川」

北海道教育大学附属旭川小学校

五年 茂田 さくら

●優秀賞（旭川市社会福祉協議会長賞）

小さな関わり、大きなつながり

旭川市立高台小学校 六年 大石 かのん

●優良賞

地域の人への感謝

旭川市立大有小学校 六年 明石 優月

●優良賞

一言の挨拶

旭川市立北鎮小学校 六年 松田 彩夏

●優良賞

町内会って素晴らしい

旭川市立西神楽小学校 六年 里木 梨夏

●優良賞

人と人をつなぐあいさつ

旭川市立豊岡小学校 五年 島田 千晶

●優良賞

地域の関わり大切さ

旭川市立高台小学校 六年 佐々木 柚花

●佳作

町内会の大事さを知って

旭川市立末広小学校 五年 山田 晴斗

●佳作

地域の一員として

旭川市立豊岡小学校 六年 久保 俊輔



第1回作文コンテスト表彰式の様子

【講評】

▼第二回（令和六年度）旭川市内小学生『民生委員・児童委員』作文コンテストには、小学校五・六年生から前回を上回る三〇校七八編の応募があり、大変ありがとうございました。

▼作文の内容としては、①家族の素晴らしいことや絆②隣近所の関わりや助け合い③人と人との関わり合いやあいさつ④町内会との関わりや必要性⑤高齢者や障がい者と共に生きる⑥民生委員・児童委員の活動などについて、自らの体験をもとに感じたことや考えたことを自分なりの言葉で表現していました。

▼さて、最優秀賞に輝いた岩内愛莉さん（永山西小）の作文『ぽかぽか／温かい気持ち』は、読み手も題名のとおり『ぽかぽか』と『温かい気持ち』になる作文でした。「私と兄」の小さい頃の映像を見ながら母とのやり取りが上手に再現されています。特に、いたずらばかりしていた「私」に対して、笑顔で楽しそうに「毎日が戦い」と言いながらも「どんな日だって宝物」と教えてくれた母の温かく包容力のある言葉がこの作文の中核をなしています。家族の在りようが問われている昨今、この作文をおして「家族とは何か」を考えさせられました。

▼審査委員は全ての作文を読ませていただきましたが、小学校五・六年生とは思われない素晴らしい作文が多くとても感銘を受けました。さらに、家族や地域の方々と関わる一人の小学生として、「支え合う」住みよい社会（家庭や地域）について考え、より良い生活を目指す姿勢は、私たち大人も見習わなければなりません。

（令和七年三月一日 旭川市内小学生「作文コンテスト」審査委員長 猫山房良）

■最優秀賞（旭川市民生委員児童委員連絡協議会長賞）■

ぽかぽか〜温かい気持ち〜

旭川市立永山西小学校

六年 岩 内 愛 莉

「かわいいね。」そう言い合いながら、両親は私と兄の小さい頃の映像を見ている。画面の中の私は、母が作ったハンバーグを片手に持ち、ケーキにも手をつけている。顔中どこるか髪にまでクリームや食べものが付着している。「はずかしい。」と思う反面、楽しそうに映像を見ている両親の姿を見ると、自分が大切にされていることを実感する。

我が家には、私の小さい頃の映像がたくさんある。公園で木の枝を持ちハトを追いかけている様子、ひっくり返って大泣きしているもの、兄といっしょに部屋中をティッシュだらけにしている様子やワセリンを全身にぬりたくり髪までベタベタにして笑っているものまである。もし、私が親の立場だったら絶対に怒っている。きっと両親は大変だっただろう。母に「私、小さい頃いたずらばかりで大変だったでしょう?」と聞いたことがある。母は「毎日が戦い」と。でも、顔は笑っていて楽しそうに見えた。「大変なことを思い出したらイヤな気持ちになら

ないの?」と再度たずねた私に、母は即答で「なるわけないよ。ママの幸せな思い出だから」と言った。そして、少し考えて「大変だったのは本当。だけど、それ以上に幸せな時間だったよ。あなた達と過ごす時間は、どんな日だって宝ものだから。きつと、愛ちゃんもママになった時に分かるよ。」と、にっこりした。それから、私の小さい頃の話を笑いながら教えてくれた。何度も聞かされている私のおてんばエピソード。

楽しそうに話をする母の顔を見て、心がかぼかぽかと温かい気持ちになった。母も私と同じようにぽかぽかと温かい気持ちになってくれたらうれしい。そう思うと、私は自然と笑顔になっていた。私にとって、家族は多くの時間をいっしょに過ごす特別な存在だ。ケンをし、もう大キライ!!と思う日や叱られて泣く日もある。けれど、うれしさや楽しさを共有するのも家族だ。私が自分の気持ちを正直にぶつけ、そして、それを受け止めてくれるのも家族だけだろう。だから、私にとって家族は安心して過ごせる大切な場所であり、特別な存在なのだ。この特別な存在である家族を、私はずっと大切にしていきたい。毎日、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えたり、「気を付けてね」「おかえりなさい」など、相手を思いやる言葉をかわす。こうした日常

の小さな感謝や思いやりの心を積み重ねていくことが、家族のきずなを深めていくのだと思う。母が言った「どんな日も宝もの」という言葉。家族と過ごす日々は、どんな日だろうと私の宝ものだ。この母の言葉を大切に、今日も私は家族と共に過ごす。大好きな家族がみんな、ぽかぽかと温かい気持ちでいられることを願って。

■優秀賞（旭川市長賞）■

きれいに咲いたあさがお

旭川市立啓明小学校

五年 渡 部 真 白

私は、一年生の時にあさがおを育てました。花が終わった後に種を取り、お花が好きなお向かいのおばあさんにプレゼントしました。次の年、おばあさんはお庭に種を植えて育ててくれました。

「きれいに咲いたよ。」と知らせてくれたので、見せてもらうことにしました。

そこには、見上げるほどの高さまで伸びたツルと、ピンクやむらさき色の花がたくさん咲いていたのです。

私は、自分で育てたあさがおしか見たことがなかったので、自分の背よりもずっと高い所まで伸びているツルにおどろきました。そして、きれいに咲いたたくさん

あさがおを見てほれられました。「毎日家の中からながめて、元気をもらっているんだよ。」

と、おばあさんはとてもうれしそうに話してくれました。それを聞いて、私もうれしくなりました。

おばあさんはいつも、ひな祭りやクリスマスの際にケーキをくれたり、夏には、お庭で育てた野菜を分けてくれます。やさしくて、大好きなおばあさんです。

私は、四歳からピアノを習っています。毎日欠かさず練習をしています。まどをしめてもピアノの音が外にもれてしまうので、夜九時いこうはひかないように気をつけています。

「うるさくてすみません。」母は、ご近所さんに会うとあやまります。

でも、家族で町内のごみ拾いや親ほく会に参加した時、「いつもきれいな音色が聞こえてくるね。まどを開けてどんどん聞かせてちょうだい。」

と、ご近所さんに言われました。やさしく見守ってくれるご近所さんのおかげで、私は練習をがんばることができています。

ある日、町内のおじいさんがないないおばあさんたちに声をかけ、車に乗せておそう式に行っていました。年末で、タクシーの予約ができなくなって困っていたところだったそうです。

父は、毎年近所で雪にうまって動けなくなっている車を助けています。

私も、父や母のように、困っている人がいたら助けたり、ご近所さんのように、いつもやさしい気持ちでいられるような人になりたいです。

これからも、ご近所さんとの交流を大切に、助け合いながら楽しくくらししていきたいです。

■優秀賞

（旭川市教育委員会教育長賞）

家族と人と関わることの大切さ

旭川市立東光小学校

六年 野 田 いのり

私は去年の夏休みに、家族からはなれ五日間、祖父母が経営する民宿のお手伝いに行きました。祖父母の経営する民宿は、旭川から約百七十五キロはなれた天売島という小さな島にあります。夏になると道外や外国からたくさんのお客様が訪れます。

私はその民宿で、朝は早く起きて朝食の準備や客室のそうじ、アイロンかけや晩ごはんの提供、後かたづけ、お血洗いなどをしました。その経験を通して感じたことがいくつかあります。

一つは、人とのコミュニケーションの大切さです。民宿では初

きました。

この経験を今後の生活にも生かしたいと思いました。それと当たり前毎日過ごしている家族の存在も大切にしたいと思いました。

■優秀賞

(旭川市小学校長会長賞)

心でつながる街「旭川」

北海道教育大学附属旭川小学校

五年 茂田 さくら

二つ目は、やりがいを感じたことです。私のお手伝いの内容は、朝食、晩ごはんの準備、客室のそうじなどで、すごく大変なのですが、お客さんがおいしいごはんを食べさせていたり、よろこんでくれているところを見ると頑張つてよかったなと思い、やりがいを感じたし、接客業はとても大変だけれど、その分やりがいを感じる仕事だと感じました。この経験を生かして、普段の生活でもみんなの役に立てるように頑張りたいと思います。

三つ目は、家族とはなれるさびしさです。私は、家族と約五日間はなれてお手伝いをしにいったので、毎日会えるような当たり前のことができなくなつてしまい、とてもさびしかったです。休みの時間に電話をしたりしてなんとかのりきました。家族に約五日間ぶりに会えた時はとてもうれしかったです、まだ二才の妹にも名前を久しぶりに呼ばれた時は泣きそつでした。改めて家族の大事さに気づ

ことができました。

大雪が降ったあとの週末に父が朝早くから除雪をしていました。私は冬休みなので少しおそめに起きて窓を見ました。すると、父はみんなが使った道路だけでなく、お向かいのおじいさんの家の屋根の雪下ろしをしていました。父と会話をしていたおじいさんは笑っているように見えました。そんな父の姿を見た私はこつ思いました。家族ではない人のためにお手伝いができるつてすごいな。私の中で少し父が格好良く見えました。同時に、これがボランティアなのかな、と思いました。

子供達を対象にした冬休みのイベントで、陶芸教室があると町内のおじいさんが教えてくれました。子供が少ないからといって町内会のご厚意で、私達兄弟を無料で参加させてくれたのです。「冬休みの自由研究にもなるね。」と笑顔で話してくれました。私達兄弟は、「ありがとうございます。」

感謝の気持ちを込めて言いました。私は思い出していました。低学年のときに、通学路にあった家からすぐ近くのグループホームの方達に明るくあいさつをしてもらったり、自宅のかぎがなくて入れなく母を探して歩道を歩いていたときに、

「ここで待っていていいよ。」と優しくパズルをだしてくれて一緒に遊んでもらったことがあった

のです。私も地域の人に助けてもらったことが何度もあることをはつきりと思い出したのです。

私は、「みんせい！」を読んだことをきっかけに、私が住む街にもたくさんの人達が支え合つて生活していること。そして、そのために民生委員として関わつてくださり「支え合うまちづくり」を率先して行っていること。私達も協力して、助け合う気持ちを持つことを学ぶことができました。共に生きると書いて共生という言葉があります。私達の住む街の未来を考えて、私はご近所の方へのあいさつや除雪などのお手伝いもしていきたいです。

■優秀賞

(旭川市社会福祉協議会長賞)

小さな関わり、大きなつながり

旭川市立高台小学校

六年 大石 かのん

私の地域の人たちは、私が朝学校へ登校しているときに、「おはよう」「いつてらっしゃい」などと声をかけてくれます。私が下校しているときも、「おかえり」

「お疲れ様」と声をかけてくれます。このような言葉が、私の心の支えになっています。

登校中に、「おはよう」とあいさつをされると、朝の暗い気持ち

が吹き飛び、「今日も一日がんばろう」という、前向きな気持ちになります。

学校終わりは、とても疲れていますが、「お疲れ様」という一言で、「今日もがんばつてよかった」と思えます。

私は、これまで、あいさつでたくさん元気をもらいました。次は、私が地域の人たちにあいさつをして、みんなに元気を分け与えてあげられたら、いいなと思います。また、私の地域では、さまざまなボランティア活動が行われています。「ゴミ拾い、独居高齢者宅での草刈り、ゴミ分別運び出しや除雪など、活動内容は多岐にわたります。ボランティア活動は、解決するだけでなく、人と人との関わりを深める重要な取り組みだと考えています。

私も、地域の公園の清掃活動に参加しています。はじめは、「何か役に立ちたい」という気持ちから取り組みましたが、活動をしていくうちに、地域の人々との交流が増えました。そして、普段なかなか話す機会のない人とも仲良くなり、ボランティア活動を通して、地域の一体感を感じました。

私は、こうした地域のボランティア活動、あいさつなどの何気ないかわりは、地域社会での、お互いの理解や信頼を築ききつかけとなり、とても大切で、私たちの生活において、なくてはならな

と思います。

このように、ボランティア活動を通して、たくさんの人と知り合うことによって、高齢者や体の不自由な人たちにも、安心して生活できることにつながっていくと、私は思います。

以上のことから、私の住む地域では、これからもあいさつを交わしたり、日常での会話を交えたりすることで、人とのつながりを大切にしていきたいと思っています。

■優良賞

地域の人への感謝

旭川市立大有小学校

六年 明 石 優 月

私の家の近くには北の散歩道がある。その散歩道には、いつもいろいろなゴミが落ちていて、私はゴミを見つけても、見て見ぬふりをして散歩道を通っていた。ある日、私は散歩道でお菓子のゴミを落とした。しかし、周りには人はいなかったし、どうせ私がやったとバネないだろうという気持ちだったのか、そのゴミを拾わずに帰った。

すると次の日の朝、友達と学校に向かっていると、私が落としたゴミを拾っている人がいたのだ。しかも、私のゴミ以外にもセブンイレブンのパンのゴミやタバコの

ゴミなど、たくさんゴミを拾っていた。そこで私は道に落ちていた、小さなゴミを拾った。拾った時のあの気持ちよさは今までにない、新しい感じがした。

そしてその日家に帰ってから、母に「今日の朝、ゴミ拾いをしてる人がいたんだけど、あれってお金をもらってやっているの？」と聞いてみた。すると母は「それはボランティアだから、お金はもらっていないよ」と返してきた。私はとてもびっくりした。

その後私は、地域の人にありがとうの気持ちを込めて挨拶をすることにした。挨拶をすると必ず地域の人は大きな声で返してくれた。時には世間話をしてくれることもあり、私はとても嬉しい気持ちになった。

そして私は、この作文を通して民生委員について調べてみた。すると民生委員とは、みんなが安心して生活できる地域を作るボランティアだということがわかった。さらに、日本全国で活動していて地域の推薦会で推薦され、国から依頼される地域の役割の一つだそう。民生委員の活動内容は、訪問活動という、高齢者や障がい者のお宅を訪ねる活動であったり、災害に備えたまちづくりという、災害が起きた時に避難が難しい人のために日頃から訓練するなど、困った人を助ける活動をしていることがわかった。訪問活動は私の

父がしている仕事に似ていて、父の話によると「障がい者や高齢者は、いろいろな危険があり、それを守る必要があるからとても大変な仕事だ」と言っていたので、それをお金をもらわずにやる人はすごいと思いました。

私はこの作文を通して、今後地域の人との交流を深めていきたいと思った。そして現在、民生委員のなり手が少ないらしい。父は「普段の仕事では相手に寄り添って、どうすればいいかを考えて仕事をしている」と言っていた。きくと民生委員の人もそのような考えを持った、とても優しい人なのだろう。私も将来、誰もが安心して生活できるように、普段から地域の人への挨拶などをして支え合いながら過ごしていきたい。

■優良賞

一言の挨拶

旭川市立北鎮小学校

六年 松 田 彩 夏

私は、たった一言の挨拶で友達や地域の方、家族と仲が深められると思います。

なぜなら、挨拶を言つ、返す、この少しのやりとりで人は元気になるからです。ご近所の方や、友達に挨拶をして挨拶が返ってくると嬉しいし、これからも挨拶を

してみようという気持ちになるはず。逆に、挨拶をしても返ってこなかったら、挨拶ができなくなってしまう。挨拶に対しての恐怖心を抱いてしまったりする可能性もあります。

私には、挨拶をして友達になつた人や挨拶をしたことで喋るきっかけになった人がたくさんいます。会話ができない短い時間でも、おはよう、バイバイなどの声をかけることができれば、その友達と関係が悪くならず、小さなことでも物事を伝えられる仲になれます。

さらに、友達じゃない、地域の方やご近所の方とも挨拶をしてつながることができると私は思っています。旭川は災害が少なく、対応になれていないのでもしもの時はみんな焦ったり困ったりするはず。私たち小学生や未就学児は絶対に焦るし、もし親がいなくて一人の時に地震などの災害があるとても怖い。そんな時に普段から挨拶をしていないとご近所の方に助けを求めることができず、一人で避難をしなきゃいけない。もしかしたら災害に巻き込まれてしまつかもしれません。ですが、普段から挨拶や会話をしていれば、地域の方やお隣の方に助けを求めたり、お隣さんと一緒に避難することが出来ます。

私は母と兄と暮らしています。母は学校の国語の先生をしていて、兄は高校二年生です。私は母と学

校に行くタイミングが一緒なので、母とはおはよう、いってきますの挨拶をしたり、朝ごはんを作ってくれるのでありがとうを言ったりする時間があるけど、兄は起きる時間が違うので挨拶ができません。おはようが言えないからこそ、寝る前におやすみを言ったりします。お互い思春期で家族と話すのは抵抗があるけど兄妹喧嘩が起きないように気をつけています。

私は挨拶をちゃんとし始めたのはおそろく今年からで、去年までは何人かに目を見ず、適当に挨拶をしていました。だけど今年からは学校の取り組みで挨拶運動を企画したり、校長先生からの呼びかけで目を見て、はきはき自分から挨拶をすることができるようになりました。私は人との関係を保つためにも、自分のためにも挨拶をすることが大切だと思います。

■優良賞

町内会って素晴らしい

旭川市立西神楽小学校

六年 里 木 梨 夏

私の地域は、二十五軒の世帯があり、そのうち二十二軒は、六十五歳以上の人が住んでいます。子供は、私一人だけで、他にはいません。年々、一、二軒は亡くなる人がいて、町内会の人数が減っ

てしまい、新しい人は入ってきません。地域の人は、年々人数が減っていることに對し、「悲しいけど、仕方がない。」と言っています。

私の町内会では、行事で、盆踊りや新年会を行っています。盆踊りでは、地域の人が一致団結し、祭りを盛り上げようとする姿を見ました。私の父と母も地域に積極的に関わり、みんなで協力していました。私は、人見知りで、すぐに緊張してしまうということがあり、恥ずかしくてあまり直接的に関わるうとしませんでした。それでも、父と母がやっているのを見て、「地域っていいな」と思い始めました。

それから、新年会では、ビンゴ大会などの催しが毎年行われています。みんなでそれぞれの役割を決め、一緒に話し合って、楽しい企画を考えてくれています。そんな思い出や繋がりがあからこそ、地域の人が地域を好きになつていくのだと思います。そんなことをしている時、町内会長さんからの言葉がありました。それは、「死んで一週間も見つからないような情けない町内会にはしたくない。」

という言葉でした。その言葉を聞いている最中、父は目に涙を浮かべながら、町内会長さんの話を真剣に聞いていました。私は、町内会長さんの言葉と父の初めて見せ

る涙を見て、町内会長さんの強い意志を感じ、地域を大切にしようとした温かい父の気持ちごとにも誇らしく思えました。

地域の人口が減少している中、私に出来ることは今はまだ少ないかもしれませんが、私がこの先、進学、就職して行く中で、地域との関わりを大切にしていきたいから考えていきたいと思えます。そして、どのように地域を活性化させることで人口増加へと繋がるのか、父のように自分ごととして捉え、私が出来る最善策を見つけていきたいです。

■優良賞■

人と人をつなぐあいさつ

旭川市立豊岡小学校

五年 島 田 千 晶

「おはようございます！」その一言で今日も気持ちの良い私の朝が始まります。

私の家の近所や通学路には、朝会ったらずあいさつをかわしてくる人がいます。白い犬の散歩をしているおじいちゃん、近所の「ミ捨」場で会うおばあちゃん。特に通学路では、「おはよう。車に気をつけてね。」などと言ってくれるおじいちゃんがあります。そのおかげで、すぐく気持ちの良い朝をおかえることができ、今日も

一日がんばろうという気持ちになります。中には、私があいさつをしてもかえしてくれない人もいます。そういう時、私は母の言っていることを思い出します。母はいつも「たとえあいさつが返ってこなかったとしても、あいさつをさしていやな気持ちになる人はいない」と言っています。だから私は、積極的にあいさつをすることを心がけています。

私は、祖父母の家にもよく遊びに行つて、泊まっています。特に私は、お正月が大好きです。父と母、兄はもちろん、親せきや友人などたくさんの方が集まるからです。私は、そうやって皆が集まると、やっぱり家族や親せき、友人はあたたかくぬくもりがあるんだなあと感じます。夏休みに泊まりに行つた時には、朝、祖父母と一緒に地域のラジオ体操に参加したりもしました。あいさつをするとか皆笑つて「おはようございます」と返してくれます。祖父も「かいさつができて、「えらいなあ」とほめてくれました。勇気をふりしほつてあいさつをして良かったなあという気持ちになりました。家族以外の近所の人などに関わることは少ないと思つていたけれども、あいさつやラジオ体操などを通じて、私が気づかないうちに地域の人や近所の人などたくさんの方の関わり、つながりをもつていたんだなあと思いました。

■優良賞■

地域の関わりのおおきさ

旭川市立高台小学校

六年 佐々木 柚 花

私は、近所の関わりをとても大切にしています。なぜなら、私の家の周りには子どもがあまりいなくて、近所のおばあちゃんとお話をしたときに、

「こちらへんは本当に老人ばかりだから、元気な子どもたちがひっこして来てくれてとてもうれしい。元気もらえる。」

と言つていたことを覚えていたからです。このようなお話を弟と聞いたときに、私は「自分達が話しかけるだけでおじいちゃんおばあちゃんが笑顔になるなら、次からは積極的に話しかけよう」と思

ました。そこで、このことを弟に伝えました。すると弟は、「みんなが元気になれたらいいよね!!」

と言っていました。私は弟がそのようなことを言ってくれるなんて思つてもいなかったのでもおどろきました。それから私は、学校に行くときや家に帰るときは地域の人が積極的にあいさつしたりお話をしたりしています。地域の人はみんな、

「おかえり、今日は何したの?」とか、

「何か困っていることはない?」つても相談してね。」

など、いろいろなことを話したり、聞いたりしてくれます。私は家の近くにも相談することのできる大人がたくさんいることに、とても安心しました。家にいる家族とはちがうしんらいがあり、たのしいと感じました。

数か月前に、またいつものようにとなりのおばさんと学校の帰りにお話ししようとあいさつをしたときに、いつもおばさんというおじいさんがいないことに気がつきました。弟はあいさつをしたあと、「今日はおじいさん、いないんですか?」

と聞くと、「おじいさんねえ、もともとあった病気が悪化して入院してるんだ。」

と言っていました。私は悲しくな

りました。最初は、何も知らない
おじいちゃんだったのに、こんな
に心配になるのは、ご近所さんを
たよっていたということが気がつ
きました。この前、おばさんの荷
物を運んだとき、

「ありがとう。次もまたたのんで
もいい？」
と言われ、

「だいいょうぶです!!」
と言つと、

「たよりにしてるね。」
と言つてくださりました。私はう
れしい気持ちになりました。

このように地域の関わりを大切
にすると、おたがいが安心でき、
住みごちがよくなるのです。そ
のため、私はこれからも近所の関
わりを大切にしていきます。

■佳作

町内会の大事さを知って

旭川市立末広小学校

五年 山 田 晴 斗

ぼくは、小学一年生の六月ごろ
に旭川に引越してきました。もち
ろん、だれも知っている人はいま
せん。お友達もいませんでした。

引越して来てすぐに、町内会
へ加入のおさそいがきて、父は加
入しました。この時は、まだぼく
は一年生なので町内会の意味がわ
かっていませんでした。

そんなぼくは今、五年生になり
町内会に沢山参加するようになり
ました。町内会に参加することで
町内会の大事さや町内の人との関
わりを覚ええました。

ラジオ体操に行つて顔を覚えて
もらい、元気なあいさつをしまし
た。この前は、初めて町内のゴミ
拾いにも参加しました。その時に
いつも通学路で通っている道にゴ
ミがずっとあつて気になつていた
ので、そのゴミを拾いに行きまし
た。すると、建物から人が出て来
て「ありがとう」と言つてもらえ
て気持ちが良かったです。

ぼくはこうして、町内会に参加
をしたり、町内の人に顔を覚えて
もらいました。今では、すっかり
なじんでいます。

でも、ぼくが一番町内の人との
関わりが大事だなと思つたのは、
母の行動です。母は、引越をし
て来てから毎回ゴミ拾いに参加し
たり、班長を引き受けたりしてい
ます。そして、ぼくの家の周り
は高い者ばかりで、母は、近所の
人に会つと必ずあいさつをしてか
ら「何か困つた事があつたらいつ
てください」と言つています。

そんな母に、近所の人「融雪
溝があかないからあけてほしい」
と頼つて来た人がいたり、逆に母
の車がうまって困つていたら近所
の人が助けてくれたりしています。
そんな母の姿を見て、ぼくは近所
の人との関わり的大事さを知りま

した。

ぼくも、これからも町内のイベ
ントなどに参加して、近所の人
が困つていたら助けてあげたり、
頼つてもらえる人になりたいです。
そして、町内の人との関わりや町
内会の大事さをお友達にも広めて
いきたいと思っています。これからの
町内会には、ぼくたちのように若
い人たちが必要になつてくる時
があると思うので、その時は協力し
たいです。

■佳作

地域の一員として

旭川市立豊岡小学校

六年 久 保 俊 輔

ぼくは去年の十月、十一年間過
ごしたお家から引越しました。

その四月前の六月、お家を
くり始めたとき、新しく建てる
土地を見に訪れました。家の土台
みたいなもので部屋の大きさを区
切つてありました。この土地の周
りを見てみようと思つて歩きま
した。少し歩き始めたころ、庭の手
入れをしていたおじいさんが「こ
のあたりに引越すのかい。」と
話しかけてくれました。そして
「このへんは優しい人ばかりだよ。
近くにスーパーや郵便局もあつて
便利だ。これからの生活が楽し
みだね。」と近所のことについて教

えてくれました。確かに以前、こ
のあたりを車で通つたとき町内会
の方々が歩道の花だんを協力して
手入れをしていました。その他に
もゴミステーションの分別のルー
ルをしつかり守つていたりしてい
るのを見て、このあたりの住民は、
たとえあたり前のことであっても
手をぬかずしつかりと日々続け
ている人がいっぱいいるんだとい
うことが分かりました。そして、
このような人がいるからこそ、お
たがいが暮らしやすく、気持ちよ
く過ごせるんだなとい
うことを改めて実感しました。ぼ
くも引越したら今まで以上に

「この地域の方々の役に立ちたい」という気持ちが高まりました。
そして十月、引越した日に両
隣のお家と、裏のお家にあいさつ
にいきました。どのお家の人も
「これからよろしくね。」と笑顔
でぼくをおかえてくれました。

新しい家に来てから月日が経ち、
十月十九日の夜に旭川で初雪が観
測され、十一月の下旬から本格的
に雪が積もり始めました。家の前
の雪をかいているとお隣の家の人
が出かけるようで、家から出てき
ました。ぼくは「こんにちわ。」
とあいさつをすると、「こんにち
は。雪かきえらいね。」と返して
くれました。

あいさつをすると、顔見知り
になり、もしものことがあつたとき
に助けを求めやすいというメリッ

トもあります。それ以前にやつ
ぱりあいさつをすると、おたがい
が気持ち良くなり、「がんばろう」と
思ふことが出来ます。そして、あ
いさつから何かの会話のきっかけ
にもなります。だからこそ、たと
え知らない人でも、ある程度知つ
ている顔見知りの人でも、どれだ
け仲が良い人でも、人と人との関
係はあいさつから始まり、あいさ
つはなくてはならないものだとい
うことに気づきました。



作文コンテスト審査のようす

令和6年度第93回全国民生委員児童委員大会(宮崎大会)参加報告

(令和6年11月20日(水)～21日(木)、シーガイアコンベンションセンター)

初日の全国大会式典では、全国民生委員児童委員連合会会長表彰の中で、優良民生委員児童委員協議会として、旭川市忠和地区民児協が表彰されました。また、永年民生委員児童委員として活動した方々が表彰されました。

次回開催地、北海道を代表して、北海道民生委員児童委員連盟の佐川徹会長(本会会長)が挨拶をされました。プロモーション映像で、北海道の自然・観光・食材等をアピールし、会場から驚き・感動の拍手がわきました。素晴らしいPRでした。

特別講義は、くまモンなどの着ぐるみを制作しているKIGURUMI.BIZ 株式会社 代表取締役 加納ひとみ氏の「向こう側の笑顔とこちら側の笑顔 ～まずは私が幸せでいよう～」でした。社員の9割以上が女性の会社です。着ぐるみを制作する理念として、向こう側の笑顔「ユーザーフレンドリー」美しく動きやすい、安全・安心・快適であること。こちら側の笑顔「誰かを幸せであるべき」と考えています。自分たちが幸せになるために聞くことから始めました。不満のトップ2は、時間外労働(残業&休出)と有休が取りづらかったです。職場の意識改革を行い、働きやすい環境をつくることにより、売上も利益も増えました。変わり続けることの大切さ、働く人に合わせてカスタマイズしていくこと。大変勉強になった講演でした。地区民児協の活動に置き換えてみます。

翌日は、活動交流集会(シンポジウム)で、「持続可能な民生委員・児童委員制度・活動に向けて取り組むべきこと」に参加しました。

厚生労働省からは、民生委員・児童委員の最近の動向について、民生委員に対するアンケート調査をもとに、今後の方針について話されました。

3地区のパネリストからは、地区の活動報告がありました。その中で、富山県高岡市の活動が、今後の参考になるのではないかと思います。人口約16.3万人で、民生委員・児童委員が383名(主任児童委員41名含む)、男女の構成比はほぼ半数で、平均年齢は民生委員児童委員が67.1歳(定年75歳)、主任児童委員54.7歳(定年55歳)、有職者53%です。有職者が多いのは、市が中心となって就業先事業所あてに民生委員・児童委員活動に対する支援・協力依頼文を発行し、就業先の理解を得る努力が行われている結果と思われます。

帰りは、宮崎空港から帰路につき、午後7時10分頃、全員無事に旭川に着きました。

私は初めて宮崎県内を見聞したので、神話の歴史を再確認させていただきました。事務局をはじめ、同行の各地区民児協の会長との繋がりが深まり感謝します。

永山東地区民生委員児童委員協議会 会長 紙谷 忠志



編集後記

- ▽新年を迎え、昨年の悲惨な出来事が脳裏から離れない。忘れられない、忘れてはならない。一日も早く被災地の方々に明るい希望の光が当たることを願う。
- ▽昨年に続き作文コンテストを継続することができました。そして、子ども達から多くの作文が届きました。感謝です。
- ▽今の時代、文字は書くのではなく、文字は打つものと言えるかもしれない。更に自分の気持ちを文字化することは、大人でも容易なことではない。
- ▽しかし子ども達は、独自の感性で感じ取る能力を持っている。我々も昔は持っていたように思う。どこに置き忘れてきたのだろうか？
- ▽今回の応募作文もその感性を十分に発揮された素晴らしいものであった。これからもその感性を磨き、大人になっていくことを期待している。 [マサ]

永山東地区 三浦 敏 章 委員

(令和6年10月27日逝去)

謹んでご冥福をお祈りいたします

令和7年度主な行事予定

月 日	場 所	内 容
5月11日(日)	旭川市公会堂	第103回民児連大会
6月3日(火) ～4日(水)	札幌	全道民児協会長・副会長研究協議会
8月20日(水)	札幌	全道児童委員活動研究集会
9月4日(木) ～5日(金)	札幌	第94回全国大会(北海道大会)

令和7年は一斉改選の年！

5月22日(木)
地区民生委員推薦準備会全体説明会
(旭川市総合庁舎)

